

令和3年(2021年)4月30日(金曜日)

## 鹿児島島でGW三島

# バイオトイレ 実証実験

三島市のNPO法人グラウンドワーク(GW)三島は27日、杉チップを活用したバイオトイレの実証実験を鹿児島市の鹿児島ふれあいスポーツランドで開始した。施設を運営する地元企業の依頼を受けて3カ月間設置し、結果を踏まえて九州地方を中心にバイオトイレの普及を進める。

し尿を微生物に混合させた後、杉チップに混ぜてアンモニアや有機物を水と窒素ガスなどに分解する。今回設置したトイレの処理能力は1日当たり160〜300人分と通常よりも高い上、においやメンテナンスの手間などを大幅に軽減できるという。実証実験は7月まで行い、施設のメイン広場入り口に1基を設置して来

場者に利用してもらおう。問題がなければ地元企業を通じて九州地方などに設置される予定。  
GW三島は富士山で2001年から2年半にわたるバイオトイレの実証実験を実施。10年までに49基のトイレが山小屋に設置され、現在も使われている。熊本地震や豪雨などの災害対策を進める自治体に加え、し尿処理に

## 災害対応 九州地方 普及へ

頭を悩ませる観光地も多く、バイオトイレの問い合わせが増えている(三島支局・金野真仁)と語る。  
渡辺豊博専務理事は「被災地ではトイレが大きな問題になる。富士山での経験を生かして解決につなげたい」と語る。



実証実験に向けて設置されたバイオトイレ  
|| 鹿児島市ふれあいスポーツランド